



濃い緑の大葉の隙間から、白やピンクの蓮(はず)がずっと天を仰ぐように咲いている。霞ヶ浦や北浦の水辺には、蓮が栽培されており、レンコンの生産量は茨城県が日本一を誇る。レンコンは芯の周りに多数の管を持つことから、先が見える、見通しが利くとして、慶事の料理にも添えられる。

蓮の葉に水を垂らすと、小さな水玉となってコロコロと流れ、葉が揺れて落ちる。葉の表面を顕微鏡で見ると無数の凹凸があって、液体の表面ができるだけ小さくならうとする「表面張



2016.8.21

「気象コンパス」主宰

古川 武彦

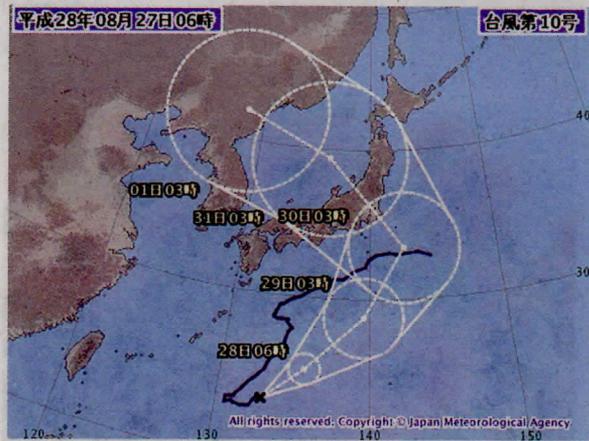
蓮

力」が働きやすく、水玉となって濡れない構造になっているからだ。さらに水玉は葉の表面に付着した微細な土やごみを吸着して洗浄してしまうので、いつもきれいだ。蓮は天然の撥水(はっすい)と自浄作用を併せ持つ。

大気中には無数の目で見えない微細粒子(火山灰や砂塵など)が存在し、それを核に水蒸気が凝結して「雲(粒)」が生まれ、空に浮かぶ。雲粒がさらに成長すると落下して「雨」となる。雲が生まれる時点で、また雨として落下する過程で、種々のちりや汚染物質を体内に捕捉して、空気を浄化している。確かに雨の後は空気が澄んでいる。蓮と共通点がある。

ちなみに、傘は布の表面に撥水性をもつフッ素樹脂加工を施して、濡れるのを防いでいる。蓮の特質を人工的に作ったものだ。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)



今年の台風は出だしが記録的に少なかったが、8月に入り立て続けに発生した。27日正午現在11個。発生順に番号が付されており、9、11号はすでに北上してしまった。10号は19日の発生以来、驚いたことに南西に進み続けた。

台風の動きは川に浮かぶ渦に例えられる。川は小笠原高気圧の周囲を巡る時計回りの風で、台風は川に流される渦。9、11号は例年より東に偏ったこの高気圧の西側を北に進んだ。図は、青実線がこれまでの経路を、白の円と線は今後



2016.8.28

「気象コンパス」主宰

古川 武彦

迷走台風

の予想経路を示す。青実線で分かるように、10号はゆっくりと南西に進み続けてきた。発生当初から、周りの北東の風が弱いため、進みが遅い。やがては北上するが、なかなか動かない。進路が定まらない台風は「迷走台風」などと形容される。10号のコースは極めて珍しい。

特に10号は発達に要注意。周辺海域の海面水温が平年に比べて高く30度以上に達しており、下層の空気が暖かく、かつ水蒸気を豊富に含む。台風に供給されると、水蒸気が凝結して熱が放出され、上空が加熱されるため軽くなり、地上の気圧が下がる。さらに強まるという発達サイクル。10号はすでに非常に発達しており、進路を北東に取り始めた。その後は北西に転じる見込み。さらに発達を続けて接近すれば大雨に暴風も加わる。常に新しい情報の確認を。

(元気象庁予報課長、理学博士、鹿嶋市在住)